



日本ドッグホーム協会が引き取った犬たち。
ケージで過ごし、1日2回散歩をする

運賃等 南野 限額は 金100万円と
運賃者の負担 札子と光輝(写真同右)と
本人の扶養等
に達する
犬は運賃者の負担 札子と光輝と
天角を全うするまで 室内で交際を以て
相済すること また 定期健康診断も
1年に2回受けさせること
し得るかの事情で 相済の不可能に
際には 扶養等
動物病院 獣医師の
相談し 新たな相済者を見つけることと
表裏つくりもとする
本運賃の運賃執行者とする
可取返す
2005年1月2日
運賃者 南野 限額

犬・ネコを残して

倒れられない!



急病・災害 「もしも」のための ペットの備え

一人暮らしの人や高齢者にとって、ペットは心の支えになる大切な存在。しかし、もしも飼い主が急に倒れたら、そのペットは誰が面倒を見るのだろうか？ 入院や災害などの緊急時に備えて、日頃から「ペットが生き延びていける」道を考えておくことが必要だ。

ペットショップも 引き取りしない

どうしても身近に任せられる人がいない場合は、終生過ごせるような「施設」を探す道もある。
有料で、飼い主の死後に猫を引き受ける「猫の森」を始めたのは、キャットシッターの南里秀子さんだ。東京郊外のマンションの一室にある「猫の森」は、「猫用窓付きドア」や「キヤットウオーク」など工夫が凝らされた約60平方メートルの部屋に、訪ねたときには「住人」の茶トラが床暖房の部屋にごろんと寝そべっていた。床も壁も天然素材。南里さんによれば、契約金は最低でも一匹200万円から。

新しい引き受け 施設造る動きも

一方、静岡市にある動物愛護団体「日本ドッグホーム協会」は、世話を続けられなくなった60歳以上の高齢者の飼い犬を「無償」で引き取っている。
「ペットが心配で入院をためらう方もおいでですので、心の支えになりたいです」
代表の白井睦子さん(44)は、そう意気込みを話す。
時折、「ウチのおばあちゃん犬を飼えなくなったから引き取って」と偽りの連絡が入ることもある。
「必ず面談をして譲渡書に印をもらいます。ほとんどの高齢の犬は生涯を施設で過ごしますが、若い犬の場合は、お貸し出しの形で新たな高齢者宅で面倒を見てもらうこともあります。信頼を築いて、活動の場を広げたいですが、今は賛助会員からの会費以上に私財の持ち出しが大きい。後継者探しも課題ですね」

藤村かおり